

学校を単位とした授業研究2021年度プロジェクト

竹内元¹

要旨

学校を単位とした授業研究プロジェクトは、次年度より教育協働開発センター研究プロジェクトとして取り込まれる。本稿では、2021年度に行った授業研究プロジェクトの概要と課題を報告する。

1. プロジェクトの概要

本プロジェクトは、学校の小規模化を背景に、教科の授業研究の成立や小中合同による校内研修の充実といった地域の課題に対応したものである。教職大学院の特色である「理論と実践の往還」の手法を活用して、学校が抱える課題を解決し、学校現場の教育の質向上に貢献するプロジェクトであり、宮崎県内の各学校や市長村教育委員会からの依頼を受け、当該学校と本学部の教員が共同で授業研究を行うものである。2020年度に対応した学校数は、1市1町の5校であり、2021年度は、1市1町の3校である¹⁾。授業参観の回数や対象となった学校教員の人数等は、表1のとおりである。

表1：学校を単位とした授業研究の実施概要

年度	2020年度	2021年度
市町村数	2	2
学校数	5	3
対応日数	37	25
授業参観回数	79	52
対象教員述べ人数	184	169
指導助言にかかわった大学教員述べ人数	75	46

教職大学院の特色である専門分野が異なる複数教員による指導体制を活かし、教科教育と教科専門、教科教育と教育方法といった複数教員の参画による授業研究も行われた。2021年度は、

¹ 宮崎大学大学院教育学研究科

実務家教員と研究者教員の組み合わせでも行われている。

本プロジェクトは、個々の教職大学院修了生を対象とした授業力向上フォローアップ事業とは異なり、現代的な教育課題への対応や校内研修の活性化など学校全体の力量形成を推進するものであり、道徳の教科化に対応した小中一貫カリキュラムの構築や小規模学校における教科の授業研究の推進などに取り組んできた。町全体の学力向上の推進への対応や教職大学院に入学してくる現職教員の勤務校への複数年にまたがる対応など、学校や市町村教育委員会との発展的な協働体制の構築や教職大学院そのものの教育フィールド研究の推進などが期待できる事業である。

2. 西都市立西都銀上学園

西都市教育委員会との連携事業の一つである。本学部の教育協働開発センターが窓口になって西都市の小・中学校における校内授業研究会の指導助言講師の派遣希望がある学校に、本学教員を派遣している。銀上学園は、施設一体型小中一貫校であり、2012年度に銀鏡中学校の校舎を改築し、2013年度から「西都銀上学園」を愛称として使用している。2021年度現在、小学生8名、中学生14名が在籍している。なお、宮崎県内で唯一山村留学生を受け入れている学校でもある。山村留学自体の受け入れは、外部団体「奥日向銀上山村留学実行委員会」の取組であり、その制度を利用して校区内の里親さん宅でお世話になっている子どもを受け入れている。2021年度は、10名の新しい留学生を迎えている。

本年度は、9月27日より10月26日までの4日間で、小学校1教科、中学校6教科の授業参観と事後検討会を行った。本学部より参加した教員は、菅裕、藤本将人、永吉寛行、興津紀子、竹内元、木根主税、小林博典の7名である²⁾。教科や単元名は、表2の通りである。

表2：西都市立西都銀上学園における授業研究の日程・単元等

日程	教科	学年	単元名・指導内容等
9月27日(月)	音楽	中2	リズムパターンをつくろう
10月15日(金)	社会	中1	古代国家の歩みと東アジア
10月21日(木)	国語	中1	「不便」の価値を見つめ直す
10月21日(木)	英語	中3	Program 5 : The story of chocolate
10月26日(火)	算数	小5	面積
10月26日(火)	数学	中2	図形の調べ方
10月26日(火)	理科	中1	光・音・力による現象

3. 川南町立川南小学校

川南小学校では、学校の教育的課題の解決に必要なテーマを設定し、1 チーム5名程度に分かれ、テーマの焦点化を図ったり、相互参観をしたり、授業を実践・検討・改善したりする研修を行っている。2021年度は、読解力、表現力、ICT活用、ソーシャルスキルの4チームに分かれ、6月に授業研究会を行うとともに、11月に唐瀬原中学校区の公開研究会を行っている。

本学教員は、読解力、表現力、ICT活用の3チームを中心に、4月14日の事前打ち合わせから11月10日の公開研究会まで、表3のように研修に参加した。なお、本学部より参加した教員は、永吉寛行、竹内元、小林博典、野邊孝文の4名であり、事前検討には、Zoomによる遠隔リアルタイム方式も取り入れた。

表3：川南町立川南小学校における授業研究の日程・単元等

チーム	事前検討の参加	授業参観と事後検討会への参加
読解力	6月2日・7月21日・10月13日・10月20日	6月14日：国語（6年） 11月10日：国語（1年）
表現力	4月21日・7月21日・10月20日	6月14日：理科（6年） 11月10日：国語（1年）
ICT活用	5月10日・6月2日・6月10日	6月16日：社会（3年） 11月10日：総合的な学習の時間（5年）

4. 川南町立唐瀬原中学校

唐瀬原中学校は、教科ごとに参観授業とフィードバックを行う方式で授業研究を行っており、全員が授業を公開している。2021年度は、2回の授業公開とフィードバックが行われた。具体的にはまず、7月1日から7月19日まで、20人の教員が授業を公開し、9名の本学部教員が指導助言を行った。本学部より参加した教員は、永吉寛行、幸秀樹、木根主税、藤本将人、小林博典、藤元嘉安、伊波富久美、菅裕、日高正博である。次に、12月6日から12月16日まで、10教科の授業研究が行われ、本学部より、永吉寛行、幸秀樹、木根主税、藤本将人、小林博典、藤元嘉安、伊波富久美、菅裕、日高正博、興津紀子の10名が参加した。なお、略案をもとに、事前協議が行われた教科もある。教科や単元名は、表4の通りである。なお、表4は、文末に示す。

5. 今後の課題

本実践は、学校の小規模化に伴い教科によっては教科の授業研究が成立しにくい状況の中で、子どもたちの学習態度を指摘したり、表面的な技術を称賛したりするのではなくて、教科の専門性を学ぶ授業研究を実施したいという学校管理職の要望が出発点になっている。一町一中学校になり、一町一人体制も含めた教科指導体制になっていく状況において、授業を他者にひらいていくこと自体には意味はある。しかし、教科の専門性は、一コマの授業だけに現われるのではなくて、単元全体の構成が基盤となっている。授業研究を協働している学校には、講師の

教員も在籍しており、必ずしも理論的なベースがあつて、授業実践を積み上げているわけではない。教科によっては、単元構成を構想する段階から支援を必要とする教員もいる。あるいは、Zoomによる遠隔リアルタイム方式で授業を参観したり、授業 VIDEO に対する指導助言で対応したりすることで、授業公開の機会を増やしていくことが可能な教科もある。学校教員個々人が負担感を感じないように、継続的な支援のあり方や多様な支援方法を検討していきたい。

困っている教師は、共通して多忙感を感じているのではないか。多忙感を感じている教師ほど、支援を求めている。授業のよさを指摘すると、「では、次はどのように展望するか」と教師自身に学ぶ意欲がわいてくることもある。自分で自分の授業をブラッシュアップする力量がっていないのであれば、自分で自分の授業づくりをふりかえってもらうことも必要となる。対象となる教員が、ただ授業を公開するだけでなく、自分の授業力をあげていくことに参加しているかどうかには注意が必要である。学校の教員は、本プロジェクトの対象ではなく、主体である。授業を公開するという活動ありきではなく、宮崎大学と接点があることの利点が各教員にどのように伝わっているかに注意しながら、多忙感が減ったかどうかや、不登校の子どもが来るようになったかどうか、保健室の利用状況が変わったかどうかなど、実践の展望と規準をそれぞれの教員と共有することからいねいに始めてみたい。そうした意味では、近隣中学校とのつながりを創ったり、意欲がある若手教員のサポートを基軸に据えたり、授業研究プロジェクトの前提や枠組みを見直し、プロジェクトの方法を目的に応じて臨機応変に変化させていくことも視野に入れて協働を推進していきたい。

6. 注

- 1) 2020 年度の実践の一部については、次の 2 つの報告がある。竹内元・椋木香子「学校を単位とした授業 研究プロジェクト -西都市立三財小中学校 2020 年度プロジェクト-」『宮崎大学教職大学院年報』1号、2021年、48 - 50 頁。竹内元・大泉佳広・大野匠・樺島優子「学校を単位とした授業研究プロジェクト -西都市立茶臼原小学校 2020 年度プロジェクト-」『宮崎大学教職大学院年報』1号、2021年、51-53 頁。
- 2) 2020 年度は、11 月 4 日から 11 月 12 日の 4 日間に、小学校 1 教科、中学校 6 教科の授業参観と事後検討会を行い、本学部からは、菅裕、藤本将人、永吉寛行、竹内元、木根主税、小林博典の 6 名が参加している。西都銀上学園の連携は、今年度で 4 年目となる。
- 3) 2020 年度は、川南町立国光原中学校と川南町立唐瀬原中学校 2 校に対応している。国光原中学校は、7 月 7 日から 7 月 15 日の 5 日間に、8 教科 14 の授業に対応し、11 月 9 日から 12 月 10 日までの 6 日間に、7 教科 15 の授業に対応している。参加した本学部教員は、木根主税、藤井良宜、山口尚哉、日高正博、永吉寛行、中野登志美、菅裕、吉村功太郎、藤本将人、小林博典、竹内元の 11 名である。唐瀬原中学校は、7 月 7 日から 7 月 17 日の 8 日間に、10 教科 19 の授業に対応し、11 月 2 日から 11 月 30 日までの 6 日間に、10 教科 20 の授業に対応している。参加した本学部教員は、木根主税、日高正博、永吉寛行、伊波富久美、菅裕、藤元嘉安、幸秀樹、藤本将人、小林博典、竹内元の 10 名である。

謝辞：2022 年 2 月 16 日と 2022 年 2 月 22 日に開催したミーティングを通して、本稿は作成されている。参加いただいた本学部教員に、記して感謝したい。

表4：川南町立唐瀬原中学校における授業研究の教科・単元等

第1回			第2回		
教科	単元名	学年	教科	単元名	学年
国語	「ちょっと立ち止まって」桑原茂夫	1年	理科	太陽と恒星の動き	3年
	短歌を楽しむ／短歌を味わう	2年		陸と海の間の大気の動き	2年
美術	屏風をつくろう	2年		音による現象 音の大小と高低	1年
数学	二次方程式	3年	技術	エネルギー変換の技術	2年
	文字の式 文字式の計算	1年	国語	筋道を立てて「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	1年
	一次関数	2年		和歌の世界	3年
社会	享保の改革と社会の変化	2年	英語	Program8 The Year-End Events	1年
	社会権 ～豊かに生きる権利～	3年		Program7 Is AI a Friend or an Enemy?	3年
理科	酸・アルカリと塩	3年	家庭	生活を豊かにするものの製作	1年
	いろいろな物質とその性質、物質の区別	1年	数学	円の性質（円周角と中心角）	3年
	植物の呼吸	2年		図形の性質と証明	2年
技術	B生物育成の技術 葉物野菜の養液栽培	2年		平面図形	1年
家庭	幼児の生活と家族	3年	保体	バスケットボール	3年
音楽	情景や曲想を感じ取って歌おう	1年	音楽	音楽の特徴「きらきら星変奏曲」	1年
保体	球技 ネット型 バレーボール	1年	美術	自画像制作 自分をそっくり描こう	3年
保体	マット運動	2年	社会	アフリカ州～アフリカ産業と新たな開発～	1年
				SDGsから地球規模の課題についてとらえよう	3年